



3 ソフトウェア 編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

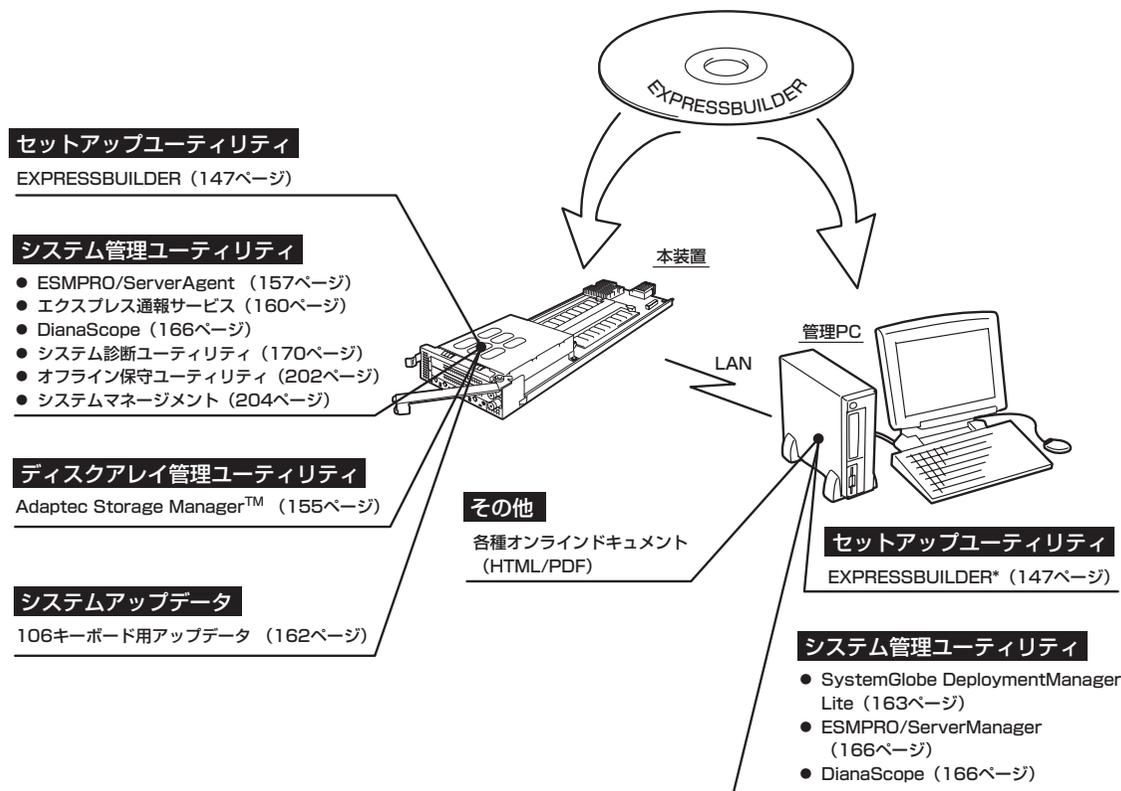
- 添付のCD-ROMについて(→146ページ) 本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められているソフトウェアについて紹介します。
- EXPRESSBUILDER(→147ページ) セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→155ページ) 本装置のハードディスクドライブにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→163ページ) システムを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



* コンソールレスで操作する場合、COMポートも使用可能。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、保守用の各ユーティリティをメニュー形式で実行する統合ソフトウェアです。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

起動時のリモート、ローカルの切り替え画面で、Lキーを押して起動させる方法です。この方法で本装置を起動すると「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。



EXPRESSBUILDER トップメニュー



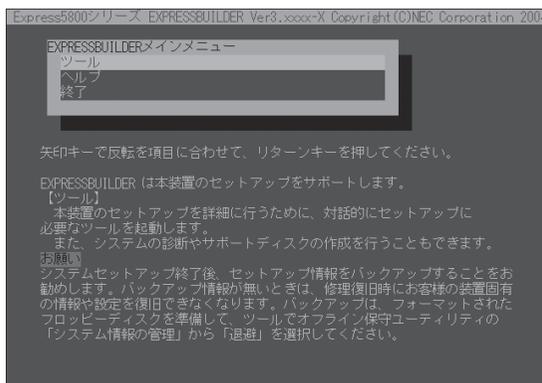
- 本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- EXPRESSBUILDERを終了するまでは他の装置のKVM選択スイッチを押してコンソールの切り替えをしないでください。

EXPRESSBUILDER トップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。

- コンソールレスで「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをブレード収納ユニット前面のUSBコネクタに接続したCD-ROMドライブから起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、「メインメニュー」が表示されます。管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。

管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。



EXPRESSBUILDERメインメニュー



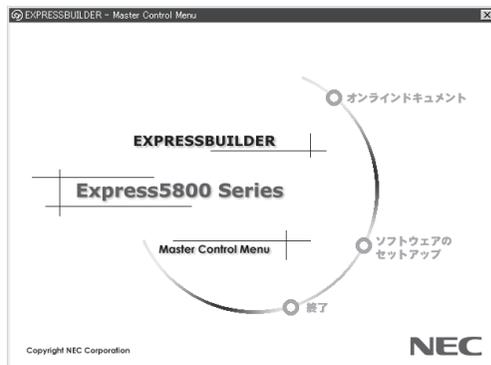
本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。

Windows (Windows 2000以降)が起動した後に、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。するとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。
EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定する。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 本体の電源がOFFになっていることを確認する。
2. ブレード収納ユニットに接続しているディスプレイ装置の電源がONになっていることを確認する。
3. 本装置のUSB選択スイッチを押して、USB選択ランプを点灯させる。
4. 本体の電源をONにする。
5. ブレード収納ユニットに接続したCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
6. CD-ROMをセットしたらリセットする<Ctrl>+<Alt>+キーを押すか、電源をOFF/ONして本体を再起動する。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
7. 起動時にリモート、ローカルの切り替え画面で、Lキーを押す。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。



ツール



ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。
セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。



終了

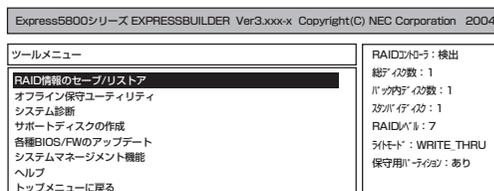
EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。



ツールメニュー

ツールメニューは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手でセットアップを行います。

また、システム診断やサポートディスクの作成を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● RAID情報のセーブ/リストア

ー RAID情報のセーブ

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行ったときは、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報を保存してください。

ー RAID情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクアレイコントローラに復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊され、RAIDディスクとして認識できなくなった場合、本機能を使用してコンフィグレーション情報を復元してください。

なお、Adaptec HostRAIDディスクアレイシステムでは、コンフィグレーション情報が正しく認識できる正常なRAIDディスクに対しリストアを実施した場合、「RAIDは正しくコンフィグレーションされています」というメッセージを表示し、リストア処理はスキップされます。



この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないようお願いいたします。誤った操作を行うとデータが損失するおそれがあります。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は202ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。170ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

ー オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

ー システムマネージメント機能

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

ー Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003をインストールするときに必要なサポートディスクを作成します。

ー Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000をインストールするときやシステムの修復のときに必要なサポートディスクを作成します。

● 各種BIOS/FWのアップデート

NEC 8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: <http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● システムマネージメント機能

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

● ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本装置にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



本装置以外のコンピュータおよび「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。

起動方法

起動方法には管理PCと本体の接続状態により、次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(シリアルポートB)された管理PCから実行する

起動方法の手順については、DianaScopeオンラインドキュメントを参照してください。



- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。
- BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。



BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller: [Enabled]
- Serial Port B: [Enable]
 - Base I/O address: [2F8h]
 - Interrupt: [IRQ3]
- BIOS Redirection Port: [SerialPort B]
- Baud Rate: [19.2k]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Terminal Type: [PC ANSI]

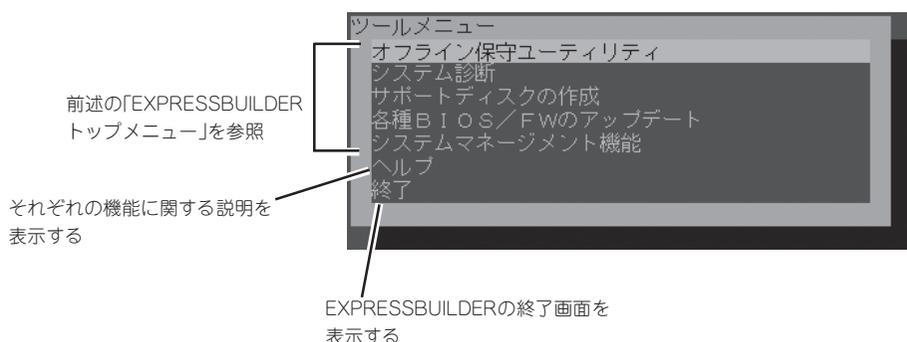
ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。
ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。



「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。

- 「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、170ページを参照してください)
- 「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類
- コンソールレスでは RAID情報のセーブ/リストアはサポートされていません。



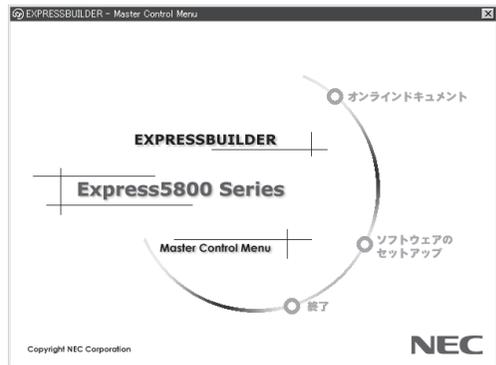
マスターコントロールメニュー

Windows (Windows 2000以降)が動作しているコンピュータ上で「EXPRESSBUILDER」JCD-ROMをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE



マスターコントロールメニューからは、オンラインドキュメントの参照や各種ソフトウェアのインストールなどができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、メニューが動作しているシステムやログオンしたときの権限によっては、項目の一部がグレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行するようにしてください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

Express本体用バンドルソフトウェア

本装置にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメントを参照してください。

Adaptec Storage Manager™

Adaptec Storage Manager™(以下ASMと略記します)は、AdaptecのSCSIコントローラを利用したディスクアレイシステム(Adaptec HostRAID™)の監視・管理を行うWebベースのアプリケーションです。ASMを使用することで、システム運用中のAdaptec HostRAIDの保守やイベント監視による通報*を行うことができます。

ASMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

* アレイの状態監視はアラート通報で行います(管理PCでのGUIによる監視はサポートしていません)。



CPUブレード1枚あたりのハードディスクドライブの最大接続台数は2台です。スペアドライブを設定することはできません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にASMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他に管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」の付録を参照し、設定を行ってください。

SystemGlobe DeploymentManagerを使ったセットアップ

SystemGlobe DeploymentManagerを使用してインストールを行う場合は、次の手順でイメージの作成を行ってからシナリオファイルを作成してください。

1. SystemGlobe DeploymentManagerがインストール済みで、初回起動時のネットワーク設定が完了しているシステム環境において、「EXPRESSBUILDER」のマスターコントロールメニューから、「ソフトウェアのセットアップ」を選択し、「Adaptec Storage Manager」をクリックする。
メニューが表示されます。
2. 「DeploymentManagerにASMモジュールを登録する」を選択し、[次へ]をクリックする。
モジュールのコピーが開始されます。モジュールのコピー終了後、「ファイルのコピーが終了しました」と終了確認のポップアップが表示されます。
3. [OK]をクリックして閉じる。

以上でイメージの作成は完了です。

SystemGlobe DeploymentManagerでインストールを行う際には、シナリオファイルの作成時にアプリケーションタブから「ASM」を選択してインストールを進めてください。

詳細については、System Globe Deployment Managerに添付の「SystemGlobe DeploymentManager ユーザーズガイド」および「EXPRESSBUILDER」内にある「SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイド」を参照してください。

この他に管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」の付録を参照して設定を行ってください。

手動インストール(新規インストール)

ターミナルサービスを使用した場合やCD-ROM、CRT、キーボード、マウスをCPUブレードに接続した場合で、手動でASMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。

この他に、電源制御抑止ドライバのインストールと管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」の付録を参照して設定を行ってください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



ESMPRO/ServerAgentの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」を参照してください。

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteに添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザズガイド」および「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」を参照してください。



SystemGlobe DeploymentManager LiteからESMPRO/ServerAgentをインストールする場合は、必ずSNMPサービスもインストールするようにしてください。

EXPRESSBUILDERからのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールする場合の方法について簡単に説明します。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindowsのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

● ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

● SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

Express5800シリーズにインストールしたOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Express5800シリーズ本体を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

注意事項

ESMPRO/ServerAgentを使う場合には、「ESMPRO/ServerAgent インストールガイド」に記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

筐体センサの通報について

筐体センサで障害が発生した際には、そのセンサを監視しているすべての本装置から通報が行われます。筐体センサと監視している本装置の対応については「電源監視について」を参照してください。

個々のブレードサーバからの筐体センサ異常通報を抑止する方法は以下のとおりです。

- **ESMPRO/ServerAgentのプロパティから行う場合**

[ブレードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

- **ESMPRO/ServerManagerのオペレーションウィンドウから行う場合**

オペレーションウィンドウにて、該当ブレードサーバアイコン、もしくはブレードアイコンを右クリックし、メニューから[ブレード筐体センサ通報設定]を選択する。

[ブレード筐体センサ通報設定]ダイアログボックスが表示されるので、通報を抑止するブレードサーバのチェックをはずす。

- **ESMPRO/ServerManager Webコンポーネントから行う場合**

通報を抑止する装置の[ServerAgentコントロールパネル]を起動する。[ブレードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

- **電源監視について**

電源監視については、以下のように動作します。

- 電源ユニットの状態について

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源]の[個別状態]は一つしか表示されませんが、個別状態は実装されている電源ユニットの状態を全て反映しています。

- 電源ユニットの障害が発生した場合

常に「電源モジュール1」または、「電源ユニット1」にて発生したと通報します。障害の発生した電源を特定するには、電源ユニットのランプを確認してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後は「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
 - 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
 - マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
- * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。
- (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

106キーボード用アップデート

サーバスイッチユニット (SSU) に接続された106キーボードを使用し、システムをインストールすると106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されます。

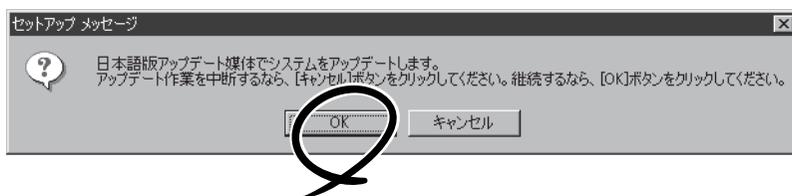
「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使ってアップデートをすることで101キーボードとして登録されている情報を106キーボードに変更し、106キーボードとして使用できるようになります。

アップデートの手順を以下に説明します。



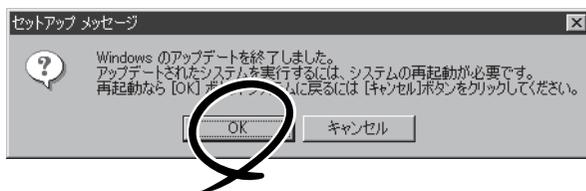
この手順を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「Ssu106¥update.exe」を実行する。
セットアップ画面が表示されます。
2. [OK]をクリックする。



アップデートが終了すると、システムの再起動を促すメッセージボックスが表示されます。

3. [OK]をクリックし、システムを再起動する。



アップデートでの修正内容は、システムの再起動後に有効となります。

管理PC用バンドルソフトウェア

本装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

SystemGlobe DeploymentManager Lite

SystemGlobe DeploymentManager Liteがインストールされている管理用PCからネットワーク上に接続されている装置に対して、BIOSのアップデートやOSのクリアインストールなどの導入・管理が可能です。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。
2. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

AutoRun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

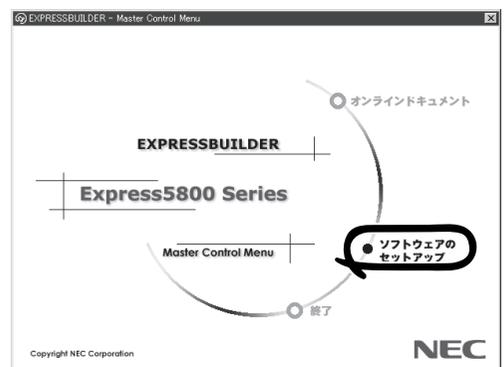
3. [ソフトウェアのセットアップ] – [DeploymentManager Liteのセットアップ]をクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもショートカットメニューが表示されません。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインストーラが起動します。

4. インストーラの指示に従ってインストールを完了させる。



SystemGlobe DeploymentManager Liteの機能

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、以下の機能を実現しています。

● BIOS/FWのアップデート

BIOSやFWのアップデートのFDイメージをネットワークを介して配信することができます。フロッピーディスクサイズ(1.44MB)までのものに限りませんが、自作したFD単体として起動できるように作成したツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteを使用して配信・実行することもできます。

● OSクリアインストール

Windows系OSに加え、Red Hat Linuxをリモートでネットワーク上のコンピュータにインストールすることが可能です。また、Windowsのインストールでは、コンピュータ毎のOS設定(ホスト名など)は、あらかじめパラメータファイルを作成しておくことで自動セットアップが可能です。



OSクリアインストールでは、以下のOSのインストールをサポートしています。

- Windows Server 2003 Standard Edition、Windows 2000 Server
- Red Hat Linux(詳細はSystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイドをご覧ください。)

● SP/Hotfixの適用

Windows 2000のサービスパックやHotfixをリモートでインストールできます。この機能は、OSクリアインストールと同時に設定する必要があります。

● システムアップデート

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに添付されているシステムのアップデートツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteで使用することができます。

● シナリオ機能

BIOSアップデートやOSクリアインストールなどの機能を使用するとき、シナリオという単位に各機能を設定して実行します。簡単な操作でそれぞれの機能を自由に設定することができ、一度作成したシナリオは何度でも使用することができます。また、オプション設定も可能で、要求に応じて柔軟に対応できるシナリオを作成できるようになっています。

● シナリオ実行セキュリティ

管理者が、誤操作や第三者の不用意な操作によるPCの破壊を未然に防ぐため、パスワードやメッセージによりシナリオ実行やシナリオ中断などをガードします。さまざまな項目で、なし、警告、パスワードの3種類のガードが選択可能で、それぞれの項目で用途に合わせて設定できます。



機能の詳細や実行方法は、SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイドをご覧ください。ユーザーズガイドは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの以下の場所のファイルです。

CD-ROMドライブ¥DPML¥MANUAL¥users_guide.pdf

WebSAM DeploymentManager(製品版)との機能差分

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、SystemGlobe DeploymentManager Liteが添付されていますが、製品版として、WebSAM DeploymentManagerがあります。

WebSAM DeploymentManagerには、Lite版にはないバックアップなどの保守の機能に加え、各種機能が強化されています。

以下にその詳細を示します。

| 機 能 | 製品版 | Lite版 |
|------------------|-----|-------|
| BIOS/FWのアップデート | ○ | ○ |
| OSクリアインストール | ○ | ○ |
| SP/Hotfixの適用 | ○ | ○*1 |
| アプリケーションのインストール | ○ | ○*2 |
| リモートアップデート | ○ | × |
| バックアップ/リストア | ○ | × |
| ディスク複製インストール | ○ | × |
| システムアップデート | ○ | ○*1 |
| PULL型シナリオ実行 | ○ | × |
| シナリオスケジュール管理 | ○ | × |
| 電源ON/OFFスケジュール管理 | ○ | × |

○: サポート ×: 未サポート

(注意)

*1 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、単独でのSP/Hotfixの適用はできません。OSクリアインストールと同時に実行する必要があります。

*2 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、OSクリアインストールと同時に設定した時のみ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれる以下のアプリケーションのインストールが可能です。

- － ESMPRO/ServerAgent
- － エクスプレス通報サービス
- － Adaptec Storage Manager™

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

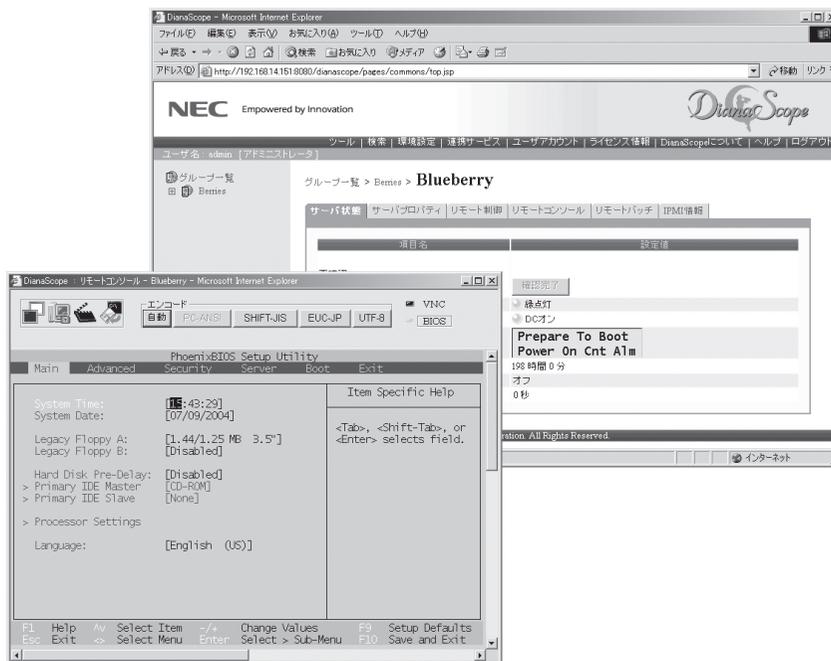
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。



本製品には以下のサーバライセンスが添付されています。

- UL 1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)
本製品を1台管理するためのライセンス